

【書 評】

『渡辺信久, 岸本直之, 石垣智基 編著: 図説 わかる環境工学』

元 川崎重工業(株)技監 井手 義 弘

本書は上述の3氏が共同して環境工学の入門書として、従来の基礎知識の頭への詰め込みをできるだけ効率的で正確に取得しやすい方法として、図説・図解で専門用語を含め、環境工学の「カラクリ」を述べているものである。ここ20年、大学の教育力が問われてきているが、企業においても、新入社員の社内再教育も盛んに行われているのが実情である。企業で必要とされる工学は、取得した基礎知識の活用と応用によるもので、その基礎知識に誤解や不足があってはならず、大きなクレームを起こす要因となるので注意を喚起して仕事している状況にある。



本書は環境工学の基礎知識を全般的に捉え、水、大気、廃棄物、環境化学物質、健康へのリスク、エネルギー、システム解析および熱力学手法に区分して、わかりやすく最低限必要な事項を選定して述べているところに価値がある。最近、得てして社会受けするテーマの研究に係る傾向が多く、これらの基礎知識の一部を欠如したエンジニアが多くなっているといっても過言でないと思う。

これらの問題に対し著者が注意を喚起している点は重要なことで、永く環境工学に携わるエンジニアや学者が本書を一読し、再認識することや再理解することを強く推奨したいと考える。確かに、永年、環境工学に携わってきた技術者から見ると、当然理解していると思うことが正確であったのかのチェックが必要で、常にその基礎が頭にあることの必要性を再認識するであろう。また、数式展開が少なく、物足りない思いもする面があるが、そこに次の課題を見つける原点があるといえるので勉強となるであろう。

敢えて希望を述べると、折角ここまで環境工学を網羅してまとめているのであるから、騒音、振動および臭気にまで、わかりやすく図説・図解の手法でその基礎知識を展開し、入門者への登竜門書として欲しかったと感じる。

しかしながら、著者が述べる如く、新しいことばかりに走るのではなく、優秀な技術者を育てる観点からの意気込みは充分で、現代に欠けている重要な問題に気付かせる意味は大きいと考える。是非、本書を皆様が精読して頂き、さらなる発展の一考としてもらうようお願いをするものである。

書 名 図説 わかる環境工学

ISBN ISBN978-4-7615-2444-9 C0051 B5 変版 191 頁 定価 ¥2,940 + 税 2008 年発行

編著名 渡辺信久, 岸本直之, 石垣智基

発行所 (株)学芸出版社 〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入 TEL 075-343-0811 FAX 075-343-0810